# 予防接種と私

私は子供の頃、休みは決まって、祖父母の家で過ごしました。海や川や森があって、おまけに書庫にはたくさんの本がありました。朝早く起きて、わずかばかりの勉強をすますと、海や川に出かけて、泳いだり、釣りをしたり、虫を捕りに森に行きました。帰りに祖母の実家に寄るのも楽しみでした。曾祖母、祖母の兄弟や母の従兄弟たちが大家族で暮らしていました。大きな農家で牛や豚や鶏も一緒でした。私のお目当ては、いつも縁側に座っているおじさんでした。傍に座ると、優しいまなざしで、学校のこと、都会のことなどいろいろ聞いてくれました。そうか、そうかと熱心に耳を傾けてくれました。おじさんは脚が悪く歩けません。母の話によると、二人が高校生の時、高熱が何日も続き、熱が下がった時、母は何ともなかったのですが、おじさんの両脚は動かなかったそうです。ポリオでした。

私が医師になった年、全国で風疹が大流行しました。勤めていた大学病院も同じで、同僚が次々に罹りました。熱と発疹がでると喜んで帰宅しました。1 週間の休みがもらえて、最初の 3 日間はつらいですが、あとの 4 日間は遊びに行ったようです。残念ながら私は罹りませんでした。この年、沖縄では先天性風疹症候群の新生児が多発し、就学時には特別クラスが設けられまししした。この頃から、女子中学生を対象に風疹の予防接種が始まりました。

私が大学の研修を終えて初めて地方の病院に勤務した時、最初の受け持ちの入院患者さんはかわいい小学生の女の子でした。意識がなく、けいれんが続いて、他の病院から転送されました。麻疹の脳炎でした。幸い命は取り留めましたが、半身の麻痺が残ってしましました。

同じ病院にいるころ、三種混合ワクチンによる高熱の副反応が取りざたされました。マスコミでも大きく取り上げられ、接種を受けない子供たちが続出しました。しばらくすると、外来に百日咳に罹った幼児が増えました。間もなく兄弟から感染した新生児が救急車で運ばれてきました。新生児が百日咳に感染すると、咳が出る前に呼吸ができなくなります。何人もの小さな命が失われました。

私は、天然痘、ジフテリア、ポリオ、日本脳炎を診たことがありません。世界では、撲滅宣言が出た疾患もあります。予防接種のお陰と断定はできませんが、大いに役立っていると思います。

予防接種は自ら病気に罹らないように予防するためと、集団で流行するのを防ぐ役割があります。みなさんが積極的に受けることをお勧めします。